

# 阿蘇草原再生推進計画がまとまりました

## THEME 01

**阿蘇草原再生の目標** 現況と課題を踏まえ、阿蘇草原再生の目標を次のように設定します。

### 阿蘇の自然と人々のいとなみにはぐくまれた貴重な草原環境を子供たちの世代に引き継ぐ

さまざまな主体の協働により、阿蘇の多様性の高い草原生態系が維持されるとともに、それらが継続的に管理されるようにすること



## THEME 02

### 阿蘇草原再生の基本的な考え方

阿蘇の草原においては、原生的な自然ではない、長い歴史の中で人手をかけて作られてきた草原という二次的自然の保全・再生が求められています。この人々のいとなみにより維持されてきた阿蘇の草原における自然再生の推進にあたっては、次の基本的な考え方に特に留意して進めるものとします。



- 1) 牧野組合等地元関係者に密着した取り組み
- 2) 草原環境の象徴としての草原景観を重視した取り組み
- 3) 草原環境の学習と体験を通じた保全意識の普及
- 4) 草原維持・再生の活動への参加者の拡大と定着
- 5) NPO や関係行政機関などさまざまな主体との協働
- 6) 活動の継続を視野に入れた社会経済的手法の検討
- 7) 科学的知見の活用や実証的な手法による順応的な進め方

#### インタビュー 草原を守る人々



#### 湯浅隆雄氏

阿蘇市内牧主会、財団法人阿蘇グリーンストック幹事、阿蘇町ホテルの会長、阿蘇市新築牧野組合員

財団法人阿蘇グリーンストックは、草原に代表される阿蘇の緑を、農村と都市と行政が連携して後世に引きついでいこうと設立したもので、今年で10年目を迎えます。立ち上げの頃は苦労もありましたが、輪地切り・野焼き支援ボランティアの導入や修学旅行生の受け入れなどの活動によって、最近では地元の方からもだいふ評価されるようになってきたと思います。

私は地元農家の立場から技術指導などに携わってきましたが、今後は、私たちの活動をもっと村の人に知ってもらい、一緒に活動を展開していきたいと思っています。そのためにも、外から来られる方には、進んで村の人に声をかけてくれるようお願いしたいと思います。都市と農村が連携するには、互いの信頼関係が大切だと思うので

第4回阿蘇草原再生懇談会で阿蘇草原再生推進計画の大筋が承認されました。この計画は、環境省が阿蘇の草原再生に取り組むにあたっての目標、基本的な考え方、施策案などを示したものです。以下にその要旨を紹介します。

## THEME 03

### 阿蘇草原再生の内容

阿蘇草原再生推進計画では、以下のことを進めていきます。

1. **草原環境の基本である草原面積の量を確保（維持・拡大）**  
野草地保全のために不可欠な基本的管理である野焼きを継続するため、輪地切りを省力化するための整備等を実施します。また、良好な野草地や草原景観を再生するための整備を実施します。
2. **草原の生物多様性の源である多様な草原環境を保全**  
近年急激に減少している採草地の拡大のための事業や希少な動植物の生育・生息地の保全・再生を行います。
3. **様々な主体との協働の促進**  
NPO等関係団体をはじめ、ボランティアや都市住民との協働を図ります。また、関係機関との協議・協働を推進します。
4. **草原環境学習の推進**  
草原環境学習拠点や学習フィールドの整備と活用を図るとともに、教材の作成、人材の育成など草原環境学習を推進します。
5. **その他総合的な取り組み**  
地域内外の多くの関係者との合意形成の場を設置します。また草原データベース作成をはじめ幅広い情報の発信と共有を図ります。



希少種が多く生育する草原



野外環境学習

#### 地域で取り組む草原再生、協議会の設立と全体構想づくりへ

自然再生は、さまざまな主体が連携し、地域づくりと一体となって時間をかけて進める事業です。今回の環境省の「阿蘇草原再生推進計画」は、それに先行する形で、再生懇談会と3つの検討部会において、大学・研究機関をはじめ、地元の農業者、NGO・NPO、行政・関係機関などの多様な主体が集まり、互いに連携・協力して実証試験やモデル的な試行事業なども重ねながら、意見交換し、検討を進め、まとめたものです。

こうした成果を踏まえ、今後は、関係者と自然再生推進法に基づく「自然再生推進協議会」を設立し、賛同が得られれば協議会の場で「阿蘇草原再生全体構想」（仮称）を策定していくことが考えられます。



#### インタビュー 草原再生への期待



#### 力丸 裕氏

天草生まれ、5年鹿山村に移住。現在は阿蘇フォーラム主催の「阿蘇インターナラライフ」第一期研修生として農業研修中。「阿蘇草原再生シール生産者の会」特別会員

長い海外暮らしの中で、日本の再生には、農業の復活が不可欠だと思いはじめました。阿蘇は、生まれ故郷の熊本県にあり、自分の憧れる山あいの風景が残るとともに、日本最大の肉用牛の生産基地で、福岡や熊本などの大消費地に近く、農業復活の鍵を握る場所。そこで自分も農業を始めたいと移住を決意。今年4月には「阿蘇インターナ

ラライフ」の研修生となり、地元の農家の手伝いをしたり、実際に農産物を流通させたりしながら農業を学んでいます。そして、農業を生業とすることの大変さ、生産の場としての草原の重要性を実感しています。

千年の年月をかけて、先祖が維持してきた阿蘇の草原、ヤブにしているものかと鼻息荒く訴えたいところです。